

# 戦 評 用 紙

平成 29 年度 新人大会バスケットボール競技大会 埼玉県予選会

平成 30 年 1 月 21 日

会 場 上尾運動公園体育館

Cコート第 2 試合

対 戦	昌平 高校	1 9	—	1 0	春日部 高校
	6 7	1 6	—	1 3	4 9
		7	—	1 6	
		2 5	—	1 0	

第 1 P お互いにハーフコートマンツーマンディフェンスで始まる。春日部高校は高さはないが激しいディフェンスからボールを奪い、シュートにつなげるが、ゴールが決まらず立ち上がり苦しい展開になった。高さに勝る昌平高校は # 15 のドライブや # 7 のリバウンドシュートなどから点数を重ね、昌平高校のリードでスタートする。ゲーム開始から 3 分が過ぎようとしたときに 10 - 2 となり春日部高校はタイムアウトを請求する。落ち着きを取り戻し # 7 ジャンプシュートや、フリースローなどで点数を取るが、昌平の # 7 の 3 P などが決まり、19 - 10 で第 1 P を終える。

第 2 P やはり高さで劣っている春日部高校は、粘り強いディフェンスと、リバウンドを頑張り苦しい中でも、# 4 の 3 P や # 7 のジャンプシュート # 16 のドライブなどでシュートを決めていく。昌平高校は、# 7 のインサイドプレーで点数を取りながらアウトサイドでも # 7 や # 13、# 15 のなどもアウトサイドショットを決め勢いに乗る。昌平高校が点差を付けていくかと思われたが、ターンオーバーやファールが重なり、良いリズムに乗れなかった。お互いにゴール下が決まらず、ロースコアでゲームが進み、両チームとも我慢する形となった。第 2 P 終盤でようやく昌平高校の # 9 のゴール下が決まり、35 - 23 で前半を終わる。

第 3 P リードして後半に入った昌平高校だが、うまく噛み合わなかったのか点数が伸びず苦しいピリオドになった。対する春日部高校は # 4 や # 5、# 12 などが積極的にインサイドを攻め点差を縮める。# 7 のリバウンドやゴール下など頑張って支配しているが、なかなかシュートが決められず、39 - 42 と、あと一歩が大きい状況になった。

第 4 P 勢いを取り戻したい昌平高校は、# 15 がドライブやファールをもらいフリースローなどで点数を取り、流れを作る。春日部高校も # 4 のゲームメイクで # 5 が立て続けに点数を取り、ラリーが激しくなる。しかし苦しみながらも昌平高校 # 15 の 3 P などが決まり、春日部高校がタイムアウトを請求する。もう一度立て直したい春日部高校は # 7、# 12 がシュートに行き、リバウンドに行きと頑張るが、昌平高校の # 7、# 13 のバックドアプレーが決まり、流れは昌平高校で進む。それでもディフェンスで仕掛け、春日部高校 # 6 のドライブやスティールから追いつこうとリズムを作る。昌平高校はしっかり時間を使ってゲームコントロールをし、フリースローで点数を重ね 67 - 49 で昌平高校の勝利でゲーム終了となった。

(記録者：白岡高校 金谷 豪)